

学習指導要領改訂の方向性（案）

平成28年6月3日
教育課程部会
中学校部会
資料4-1

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共
（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を
構造的に示す

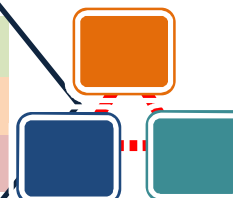
学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための
学習過程の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び



※高校教育については、些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメントのイメージ（案）

何ができるようになるか

何が身に付いたか

第1 小学校教育の基本

第3.2 学習評価の充実

個々の子供の発達を
どのように支援するか

何を学ぶか

どのように学ぶか

第2 教育課程の編成

第4.1 個々の児童の発
達の支援
第4.2 特別な配慮を
必要とする児童へ
の指導

第3.1 教育課程の実施

実施するために何が必要か

第5.1 学校における学習活動の基盤
第5.2 家庭・地域との連携・協働